

国際学部 国際学科 アドミッション・ポリシー

I プログラムの概要

国際学科では、グローバル化する地域の現状と課題を多文化共生の視点から読み解き、社会を構想していく能力やコミュニケーション能力、行動力、協調性を備えた、グローバルな実践力をもつ人材の育成をめざしています。「宇大スタンダード」に定める汎用的能力に加えて、グローバル化と多文化共生に関する知識・理解に基づき学際的かつ専門的に諸課題を考察する能力、複言語能力やコミュニケーション能力、資料・データ・文献の収集分析能力、論理的に研究成果をまとめ発表し議論する能力、実践的に行動する能力を獲得し、グローバル化する世界の問題解決に積極的に関与できる学生に「学士（国際学）」の学位を授与します。

II 教育課程の概要と入学後の学修に必要な能力や適性等

編成	概要	学修に必要な能力や適性等
基盤教育科目	<p>学士力の土台を固め、自らの可能性を広げるため、(1) 大学での学びの意義・目的等の理解や学生生活上の健康・安全等に係る知識や意識、(2) 英語や健康、データサイエンス、SDGs など、新たな社会での活躍に求められる知識・技能や考え方などの基礎、(3) 自ら問いを立て、答えを導き出すための基本的な方法や異なる専門的背景を持つ他者対話を重ね答えを導き出していく力などを養い身につけていきます。ルーブリックの活用により、宇大スタンダードの6つの力をどの程度身に付けたかを把握し、自らの学びを自分自身で設計していきます。</p>	<p>高等学校までの教科学習等から得た基本的な知識・技能等は全て、大学での学び、とりわけ初年次の学修の素地としてとても重要です。加えて、人間社会や科学技術、芸術等の幅広い分野の知見や考え方に対する貪欲な知的好奇心、建設的に批判し自ら考えようとする主体的・能動的な姿勢や向上心、計画・準備・実行・省察を地道に継続する自己管理の意識などが、基盤教育科目から得られる学びを一層楽しく豊かなものにします。</p>
専門教育科目	<p>国際学科では、グローバルな実践力に富む人材の育成を目指し、人文社会諸科学を融合させた体系的なカリキュラムを編成しています。多文化共生コア科目（国際関係論、異文化間コミュニケーション、Global Civil Society）(1年次)、多文化共生基礎科目（1～2年次）から専門外国語科目（2年次～）、グローバル専門科目（2年次～）、国際キャリア教育科目（2年次～）、専門演習・実験実習科目（3年次前期）の各科目群を経て、卒業研究準備演習（3年次後期）、卒業研究（4年次）へと段階的に学修を深めていきます。</p>	<p>多文化共生を軸とした専門教育の基礎となる主要な知識、論点を理解する能力、実用的かつ学術的な英語の運用能力、英語以外の外国語を学修し、多様な地域や文化を理解しコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を有していること。また、社会文化的課題や問題を多様な地域や論点と関連づけ、多角的に理解する能力、グローバルな視点から問題を整理・分析する能力、自ら課題を設定し、資料・データ・文献を収集し、適切な方法で分析し、論理的にまとめ発表する能力（文書及び口頭）、その成果に基づいて生産的に議論する能力、課題解決に関与する実践的行動力を身につけるための基礎的学力と意欲を必要とします。</p>

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

国際学科における教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学び、基礎的な知識を身につけておくことが求められます。また、様々な知識や情報をもとに、自分の考えをまとめ発信するためには、読解力に加え、論理的に考えを文章化する能力や、思考と感性を効果的に相手に伝える表現力、英語を中心とした外国語の運用能力が必要です。また、国際的な社会的文化的事象に対して幅広い知識と関心をもち、自分の関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自分で調べる習慣や、調べたことをもとに多様な人々とコミュニケーションをとる能力や意欲を持っていることが重要です。上記のことに加え、学習活動などを通して、主体性をもって他の人々と協働し、共に学び合うという態度をもった学生を歓迎します。

III 求める学生像、入学者選抜の基本方針及び入試による評価

- (1) 求める学生像
- ① 高等学校教育課程の総合的学力を基礎とした広く基本的な知識を持ち、外国語の運用能力と、論理的な作文能力を備えている人
 - ② 多文化共生社会に関する問題について主体的に探求し、学修意欲に優れ、多様な現象について論理的に考え、思考と感性を表現することに適性を持っている人
 - ③ 学修経験や国籍に関係なく、国際的な問題に高い意識を持ち、それらを論理的に論じることのできる能力を持っている人
 - ④ 多様な外国語や情報収集・分析・発信の方法を学び、多様な地域や文化を背景とする人々とコミュニケーションをとりたいと思っている人
 - ⑤ 多様な地域・文化を背景とする人々の存在に目を向け、共に学びあいながら、共に生きていく社会について考えたいと思っている人
 - ⑥ 世界の様々な国と地域に関心を持ち、グローバル化する地域と世界の多文化共生のために自分の力を活かしたいと望んでいる人

(2) 入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）	大学入学共通テストと個別学力検査等の結果、並びに出願書類（調査書）を総合して選抜を行います。広範かつ基本的な知識、それを活用した国際的な社会的文化的事象についての思考力・判断力・表現力、本学科での学修に必要な基礎的な外国語運用能力、主体性等をみることに主眼をおきます。
学校推薦型選抜	出願書類（調査書、自己推薦書等）と面接を総合して選抜を行います。高等学校における学業成績等と、本学科で学ぶための適性や意欲、コミュニケーション能力、国際的な社会的文化的事象に関する課題を理解し、知識を活用して導き出した自分の考えを自分の言葉で語ることのできる表現力をみることに主眼をおきます。
総合型選抜 B（帰国生）	出願書類（成績証明書等）、小論文、英語外部試験のスコア、そして面接を総合して選抜を行います。国際的な社会的文化的事象に対する関心、主体的かつ協動的に学修する意欲、文章理解力、思考力、論理構成力、表現力、帰国生としてこれまでに得た知識や経験を活用する力等、本学科で学修する適性と必要な学力をみることに主眼をおきます。
総合型選抜 C（社会人）	出願書類（志望理由書等）、小論文、英語外部試験のスコア、そして面接を総合して選抜を行います。国際的な社会的文化的事象に対する関心、主体的かつ協動的に学修する意欲、文章理解力、思考力、論理構成力、表現力、社会人としてこれまでに得た知識や経験を活用する力等、本学科で学修する適性と必要な学力をみることに主眼をおきます。
総合型選抜 D（外国人生徒）	出願書類（志望理由書等）、小論文、英語外部試験のスコア、そして面接を総合して選抜を行います。国際的な社会的文化的事象に対する関心、主体的かつ協動的に学修する意欲、文章理解力、思考力、論理構成力、表現力、外国人生徒としてこれまでに得た知識や経験を活用する力等、本学科での学修に必要な学力をはかり、適性をみることに主眼をおきます。
私費外国人留学生選抜	出願書類（成績証明書等）、日本留学試験の成績、英語外部試験のスコア、学力検査等を総合して選抜を行います。大学で学ぶための基礎学力を重視し、日本留学試験では「日本語」「総合科目」「数学（コース1）」を評価対象とします。国際的な社会的文化的事象に対する関心、主体的かつ協動的に学修する意欲、論理的に考察する力、日本語を正確に理解し、表現する力、これまでに得た知識や経験を活用する力等、本学科での学修に必要な学力をはかり、適性をみることに主眼をおきます。

(3) 入試による入学時に必要な能力や適性等の評価

入学時に必要な能力や適性等		①	②	③	④	⑤	⑥	
「学力の3要素」との対応		知識・技能	思考力・判断力・表現力			主体性等		
一般選抜 前期日程	大学入学共通テスト	☆☆☆	☆☆	☆				
	個別学力検査	☆☆☆	☆☆	☆				
	小論文	☆☆☆	☆☆					
	出願書類（調査書）				○			
学校推薦型選抜	面接	☆	☆☆☆			☆☆☆		
	英語外部試験	○						
	出願書類（自己推薦書等）	☆☆☆	☆☆☆			☆☆☆		
	英語外部試験	☆☆☆			☆			
総合型選抜	B（帰国生）	面接	☆	☆☆☆		☆☆☆		
		小論文	☆☆	☆☆☆		☆	☆	
		出願書類（成績証明書等）				○		
		英語外部試験	☆☆☆			☆		
	C（社会人）	面接	☆	☆☆☆			☆☆☆	
		小論文	☆☆	☆☆☆		☆	☆	
		出願書類（志望理由書等）	☆☆☆	☆☆☆			☆☆☆	
		英語外部試験	☆☆☆			☆		
D（外国人生徒）	面接	☆	☆☆☆			☆☆☆		
	小論文	☆☆	☆☆		☆	☆		
	出願書類（志望理由書等）	☆☆☆	☆☆☆			☆☆☆		
	英語外部試験	☆☆☆			☆			
私費外国人留学生選抜	英語外部試験	☆☆☆			☆			
	日本留学試験	☆☆☆			☆			
	面接	☆	☆☆☆			☆☆☆		
	小論文	☆☆☆	☆☆		☆	☆		
	出願書類（成績証明書等）				○			

(i) ○は、確認・参考のみとするもの、合・否、適・不適等により評価するもの
(ii) ☆～☆☆☆は、点数・段階評価するもの